

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成24年3月1日(2012.3.1)

【公開番号】特開2010-169780(P2010-169780A)

【公開日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報2010-031

【出願番号】特願2009-10532(P2009-10532)

【国際特許分類】

G 03 G 15/20 (2006.01)

【F I】

G 03 G 15/20 5 5 5

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月18日(2012.1.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

定着ローラ92とテンションローラ93に緊張状態に巻き掛けられている定着ベルト91は、図2に示すように、エンドレスの基層91aと、基層91aの外周面上に設けられた弹性層91bと、弹性層91bの外周面上に設けられた離型層91cと、を有する。基層91aの材料としては、耐熱性、可撓性を有する、ポリイミド、ポリアミドイミド、PEEK、PES、PPS、PFA、PTFE、FEP等の樹脂を用いている。弹性層91bとしては、シリコーンゴムにより形成された弹性層(ソリッドゴム層)、あるいは断熱効果を持たせるためにシリコーンゴムを発泡して形成された弹性層(スponジゴム層)を用いてもよい。あるいはシリコーンゴム層内に中空のフィラーを分散させ、硬化物内に気体部分を持たせ、断熱作用を高めた弹性層(気泡ゴム層)を用いてもよい。定着ベルト91の表層として設けられている離型層91cは、未定着のトナー画像tに対して離型性の向上を図るために、弹性層91bの外周面上にPFA、PTFE等のフッ素樹脂をコートして形成してある。または、弹性層91bの外周面上にフッ素樹脂チューブを被覆して形成してある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

可動接点部材209及び固定接点部材210は、筒部208bの内部において可動接点部材209の先端209aと固定接点部材210の先端210aが重なり合った状態に接触するように折り曲げ加工が施されている。そして可動接点部材209の先端209aは固定接点部材210の先端210aに対して接点取付板208a側に移動可能である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図11

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 11】

